

「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」を 継続し、被災企業支援に 努めてまいります。

遊休機械無償マッチング支援プロジェクト
震災対応相談員 リーダー

すがわら こうご
菅原 幸五氏

プロフィール

昭和24年10月3日生まれ。岩手県出身。血液型A型。
東洋大学文学部英米文学科を卒業後、昭和49年株式会社植松商会に入社。
平成3年に機械工具直需業界では、全国初のJASDAQ証券取引所上場を果たした同社に37年間勤務。退職後、平成23年9月、東日本大震災の発生を受けてスタートした「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」の震災対応相談員となる。植松商会時代は工作機械販売部長として活躍し、工作機械に関する知識の豊富さは業界随一。「植松商会の社長にも、被災事業所が事業再建の一步を踏み出すための活動であることをご理解いただき、工具類を提供していただいたんですよ」と笑顔で語る。妻と息子夫婦、男の子の孫3人の7人家族。趣味はゴルフ。



長年の営業経験で育んだ
知識と人脈を活かして

東日本大震災で被災し、生産機械などが流失・損壊した事業者の復興を支援する「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」において、震災対応相談員を務めることになった経緯を教えてください。

製造工作機械の販売会社である植松商会で、三十七年にわたって営業を担当してきました。同社は八戸から宇都宮まで営業拠点を設けており、私は各地のものづくりを行っている企業をまわり、その経営者の方々もよく存じ上げていました。その経験が役に立つかも知れないということで、声をかけていただいたのが始まりだったんですよ。

このプロジェクトの四人の震災対策相談員の一人、横山英子さんが「地域のことを知っていて、機械のことがわかって、ユーザーも知っている人はいないか」と工作機械メーカーの所長をしている私の友人に話し、その友人が私を推薦してくれたというわけです。現在は退職しましたが、私はずっと営業畑を歩いてきましたので、工作機械は型式を見ればどんな機械なのかはわかります。仕事で身につけたことが被災した事業者の方々のお役に立てばと思います、お引き受けした次第です。

― 昨年の九月からスタートした震災

対応相談員の活動ですが、これまでを振り返って、率直な感想をお聞かせいただけますか。

まず被災した事業所さんの立場に立って申しますと、復興への道のはまだまだといった感が強く、支援を継続していかなければならないという思いです。工場を津波で流されてしまった方は、元の場所に建てても良いのかどうかを判断できないのが現状で、事業再建への一步が踏み出せないことが今の一番の悩みではないかと思えます。

私が担当している鉄工関係の製造工場に関しては、仕事そのものはあるだけに、それを請け負う工場をどうするのか、また製品をつくるための工作機械をどのように調達するかという課題を抱え、悩んでいる事業所は少ないのが現状です。

― 現在、提供が多く望まれている機械には、どんなものがあるのですか。

ものづくりの現場では必ず必要になるコンプレッサーや溶接機、ボール盤、プラズマ切断機といった、工作機械の中でもごく基本的な作業を行う機械が多いですね。ところが提供する側の企業さんの中には、「もつとすばらしい機械の方がいいのではないか」とか、「こんな基本的な機械を提供しても…」という思いから、提供に二の足を踏んでいる方も少なくないようです。

**東北からの提供に期待し
今後も精力的に活動を継続**

— 今後、解決していくべき課題についてお聞かせください。

一つは、全国五一四の商工会議所を通じて集められた機械情報のデータベースには、たくさんの方の事業所から様々な遊休機械が登録されていますが、残念なことに被災事業所が求めている機械が量的に足りていないというのが現状です。

二つめは東北地域からの提供が少な



気仙沼の会員企業7社への機械提供に立ち会う菅原相談員（右）。平成23年10月12日。

いということ。地元宮城、仙台でも使っていない機械は結構あるはずなのですが、実際の提供は少ないのが実情です。実は提供してもよい遊休機械の情報を日本商工会議所のイントラネット上に掲載し、マッチングが成立すれば、提供企業は無償提供した機械の帳簿価額を広告宣伝費として損金算入できるというメリットもあるのですが、それをご存じない方もまだ多いのかも知れません。

商工会議所さんには、このようなメリットもあるのだということもPRし続けていただきたいと思いますし、各会員企業さんには、この機会に眠っている機械がないかを確認していただいて、提供いただけるものがあれば、ぜひ仙台商工会議所へご連絡いただきたいと思います。

三つめは、遊休機械の輸送に関する課題です。提供された機械はトラックで被災事業所に運んでいるのですが、工作機械の多くは重量があり、小さいものでも一トン程になるものもあります。それを安全に運ぶには特殊な設備と技術が必要になります。そのために専門の輸送業者に依頼するのですが、その段取りについては、私が植松商会で培った経験が役立っております。そのノウハウを存分に發揮して、同じ地域にある事業所がある程度まとめて訪問して遊休機械を収集させていただき、輸送の効率化やコスト削減を図っていききたいと考えています。

— 今後の目標をお聞かせください。

被災地からのニーズはこれから増えてくると思いますので、目標と言うよりも、被災企業を支えるマッチングを長く続けていこうという思いだけです。これまでも遊休機械と一緒に、温かい思いやりの気持ちもたくさん頂きました。例えば大きな工作機械を自社で動かして、奥に置いてあった遊休機械を表に出し、私たちがすぐに運び出せるように準備をして待っていてくださったり、「父と母が油にまみれながら私を育ててくれました。その工場ですべて使っていた機械です」と娘さんからの手紙が添えられてあったこともありました。これからも、このような思いやりに応える意味でも、このプロジェクトの継続に役に立ちたいと思っていますので、皆さまもご協力のほど、よろしく願います。

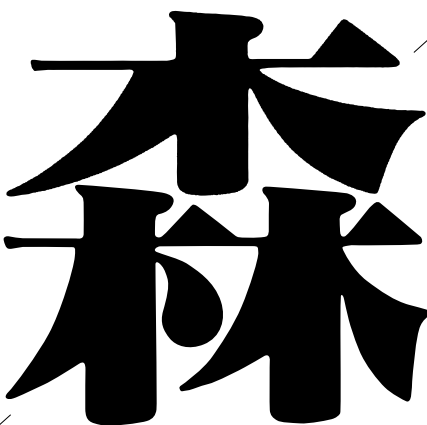
【遊休機械マッチング実績】

(平成24年3月23日現在)

- (1) 納入被災事業所数: 85社 (仙台・気仙沼・宮古・大船渡・石巻・相馬商議所会員事業所)
- (2) 提供機械台数 (点数): 約400点
- (3) 提供商工会議所数: 約30商工会議所
- (4) 提供事業所数: 約80社

工作機械をご提供いただける皆さまからのご連絡をお待ちしております。また、被災により工作機械を失いお困りの経営者の方もお気軽にご相談ください

(問) 経営支援チーム 022-265-8127



『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

— より良い環境をめざす —
AOBA 青葉環境保全

本社 / 仙台市若林区蒲町19-1

電話 (022) 286-3161 (代)